

## 平成 25 年度 第 9 回運営委員会議事録

- 日 時 : 平成 25 年 12 月 16 日 (月) 18:00~20:00
- 場 所 : ひらかた環境ネットワーク会議 会議室 (サブリ村野新館)
- 出席者 : 井上、上武、末岡、竹島、田中晃、谷口、丸井
- 欠席者 : 伊丹、鎌田、豊高 田中靖
- 議 長 : 田中晃 議事録作成 : 三橋
- 配布資料 : 1. 第 8 回 環境サポート部会議事録  
3. 第 9 回 自然エネルギー部会報告  
4. 第 8 回 まちづくり部会報告  
5. 中期経営プラン (案)

### 1. 報告事項

#### (1)事務局報告

##### ①節電コンテスト

先日の温暖化ミーティングにおいて、表彰者を決定した。

##### ②我が家のエコノート

もう少し収斂して完成度を高めていくことを決定した。

具体内容で決定した点は、以下のとおりである。

- ・ 提出用紙は、はさみこみ封筒とする。
- ・ 郵送による応募は、受取人払いにする
- ・ 1年間4冊つけてもらったならシールを渡すなど、取り組んでいる事業者がわかるような証を検討する。
- ・ より多くの人に参加してもらえるような意欲喚起の方策をしっかりとっていく。

##### ③エコチェックDAY

現在の応募者数は、3000強である。学校等からの応募がこれからであるため、最終的な応募者数は、ほぼ昨年並みとなると思われる。

##### ④環境講座担当者会議

- ・ くらわんか塾・・・環境出前授業担当者の育成の方向で検討中。
- ・ 自然エネルギー学校・・・自然エネルギーを知ってもらうことから利用促進へシフトしていく。
- ・ ミニ講座・・・スターター向けとして、間口は広く敷居は低い講座とする。

(主な意見)

- ・ CO<sub>2</sub>排出削減を目標とする点で自然エネルギー学校では、節電の取り組みとリンクさせていけばいいのではないか。  
⇒自然エネルギー学校は、CO<sub>2</sub>を出さない電力へのシフトを目標としているが、リンクできる場所ではリンクしていく
- ・ 各講座とも受講者の確保が課題である。来年度は、内容を早めに決定し、お知らせを早くすると共に、お知らせツールを工夫する必要もある。

- ・市の広報の活用を徹底させる。来年度のプログラムは4月に決定し、6月の広報に載せる。
- ・6月は、環境月間なので、年に一度位、広報で環境特集を組んでいただきたい。  
⇒検討する。(市担当)
- ・ミニ講座に関しては、担い手が事務局であり、負担が大きい。

## (2)部会報告

### ①環境サポート部会

くらわんか塾については、出前授業担当者の育成とすることが決まった。そのために大人が、小学校の高学年が何を学んでいるかを知り、教科書での学習を補充するテキストとして、枚方市の環境副読本を活用したい。

⇒環境副読本は、毎年内容を見直しているが、そういう目的で使うことを前提として作られていない。そのようなことで利用されるということであれば、目的外利用となるので、副読本のお渡しはできない。

(主な意見)

- ・学校での環境学習はまず教科書があり、副読本は、部分的に使用しているだけである。
- ・出前授業として何をすべきかを考えるために、子どもたちが学んでいる内容を知る必要がある。今はくらわんか塾の内容がバラバラであり、方針が定まっていないので、筋だったテキストを作成しようということになった。
- ・テキストなどではなく、各学校にヒアリングに行き、現場のニーズや状況を把握し、その上で、ニーズや状況に相応しいプログラムを作ることが、この法人の活動として必要なのではないか。
- ・目的が定まっていないのに内容は定まらないのではないか。

### ②まちづくり部会

- ・まちづくり部会では、環境基本計画の実行という目標に対して、まちづくり部会としての役割を再確認するための話し合いをし、来年度の計画を考えている。
- ・今までは、ネットワーク会議における役割についての認識がバラバラであったが、役割について理解を共有することができた。また、事務局に依存している部分が多かったが、計画から自分たちで考え、できるだけ自立した活動を目指していこうということで、部会員をグループ化し役割も決めてやっっていこうということになった。

(主な意見)

- ・どんなグループになるのか。
- ・部会内に事務局をつくることにした。上原さんが議事録などを担当し、三島さんが広報誌を担当する。また、清掃のリーダーは阪本さん、花いっぱい運動リーダーは金只さんなど、それぞれにリーダーを決め、リーダーを中心として全員で動くという体制とする。
- ・自分の関心ごとで動くのではなく、一つ一つの取り組みの意味を部会で共有化していかなければならない。
- ・そこは難しいが、よく話しをして少しずつ理解し始めている。

- ・ 何のためにネットワーク会議の看板を背負って活動しているのかを認識する必要がある。
- ・ 五六市の清掃は、開催場所の歴史的町並の保全にかかわる活動の一環として担っているのである。こういうことをしっかり理解してもらうことが大切である。
- ・ まちの美化活動は自治会の活動でもよい。住み続けたい町をつくるための担い手というような題目があった方がよい。
- ・ 清掃活動のネットワーク化ということか。
- ・ 五六市の清掃は、美化活動とは異なる。あくまでも、まちなみ保存活動の連携活動としてかかわっていることをメンバーで共通認識してもらいたい。

### ③自然エネルギー部会

- ・ 自然エネルギー学校は、参加者の方には喜んでもらえており好評だが、参加者数が増えないという課題をかかえている。次年度は、何を残して、何を变えていくかの検討を行った。先ず、残していく部分としては、穂谷の自然エネルギーの見学と親子参加の企画、内容のある講演などである。
- ・ 新たな自然エネルギーを活用した市民共同発電所の設置については、飯田先生の「3人よれば発電」という言葉のように、動く人、集める人、資金を出す人が必要である。それが、今のネットワーク会議で可能だろうか。また、専門的に活動する人も必要である。
- ・ 来年度の内容は、4月までに企画をまとめる。

(主な意見)

- ・ 知ってもらふ活動を終え、利用促進に移行するということで、地域所有の発電所ができればいい。企業がメガソーラーなどをつくってもその電力は地元には還元されない。ヨーロッパの自然エネルギーによる発電所は、地域所有が中心である。宝塚市でも少し行われている。エネルギーの自給自足である。映画「シェーナウの想い」のような考え方が、枚方という地域で受け入れられるかをまず研究していく必要がある。
- ・ 自然エネルギーと節電はセットで進めていってもいいのではないか。
- ・ 講演会は、専門的な勉強になる。穂谷や親子は受け入れられやすい。

### ④公共交通部会

今回は、特にない。

## 2. 協議事項

### ①中期経営計画

添付資料に基づいての説明の後検討し、原案に賛同し確認した。尚、原案に対する加筆修正については、事務局に一任し、出来上がったプランを基に行政と調整を行うことを確認した。またこの件に関連して下記の意見が出された。

(出された主な意見)

- ・ 前々回の運営委員会で話し合った、収益事業の件は、その後どうなったか。  
→実行できそうなものは、結局出てこなかった。
- ・ 他市からの委託事業も受けるなど、広げてもいいのか。

- あまり、積極的には進められない。たまたま、依頼があればという程度ならよい。
- ・会費収入についてはどう考えているのか。
    - 会員拡大に取り組み会費収入による増収を図っていきますが、その一環として、賛助会員の比率が少ないこともあり、賛助会員の拡大にも取り組みたい。そのために、賛助会員の会費を 1000 円にすることを検討したい。経済的支援をしてくれる会員を増やすことも意味がある。
  - ・京都の環境市民団体は、どのような形になっているのだろうか。他団体のケースも調べてみてはどうか。

## ②お盆休み等長期休業中の事務所の管理体制について

情報コーナーの管理請負契約では、事務所の休業は役所の休みに順ずることとなっている。お盆休み等長期休業中の事務所の管理についてどのようにすれば良いかについて話し合い、下記の内容を確認した。

- ・現在の当番制をベースに、「1日いくら」という形の有償ボランティアで協力してもらおう。
- ・1日あたりの金額については 3,000 円ぐらいが適正だと思われるが、金額の確定については、来年度予算との関係もあるので、次回位以降決める。

## ③草地シンポジウム

チラシを会報誌とともに会員に郵送してもよいか。

⇒了解を得た。

<次回運営委員会>

1月24日(金)	17:00~18:30	枚方市駅周辺で部屋を借りる
	19:00~	新年会